



## 第 25 回坡州交流会を終えて

日本側実行委員長 藤田

「違和感を超えて—平和、人権、統一、その新たなる始まり」をテーマに、非武装地帯で朝鮮民主主義人民共和国と向かい合う坡州の地での交流会でした。

初日のイデフン教授による講演「分断暴力と脱分断」では、「分断とは私にとって何なのか」という問いを投げかけられました。私にとっての分断を一人一人が見つめることによって、はじめて現実を変える力になるという話でした。

その問いを受けて、ウジヨンさんの授業報告「分断を超え平和な韓半島を夢見て」があり、堀川さんの「朝鮮学校無償化の変遷と課題」、佐野通夫さんの「なぜ訪朝するのか」（紙上報告）、善元さんが紹介した「朝鮮学校の一年」の映像、初めてのスカイプによる金さんの「在日韓国人が日本の公立学校の教員として働く意味」、討論の中での東京韓国学校出身の学生リソイさんの発言など、それぞれの場所での分断と分断を超えようとする取り組みが報告されました。グループによる討論を採り入れ、活発な議論ができました。

南北統一への希望と不安の中で、フィールドワークを行い、韓国での南北分断、脱北者の状況、日本における朝鮮学校の課題や在日コリアンの現実などを共に話し合えたことは、日韓関係が困難な状況になり、東アジアが揺れ動いている中で意味のあるものになりました。

また、アンミョンソンさんの「統一過程をドイツから学ぶ」の中で、ボイステルスバッハ協約が紹介されました。ドイツ統一前に始まった市民交流の中で東西の教育学者が集まりつくったこの協約では、教育目標に「理念と政権に偏らない教育」を掲げ、①強制の禁止②論争性の維持③政治的行為能力の強化を確認しています。すなわち、教育は国家権力の道具ではなく、子ども自身が考え、話し合い、自分たちの社会を自分たちが作っていくことを目指すものと言えます。非常に考えさせられるものでした。

交流会の中で、日韓の信頼と友好の関係を築くことを願って緊急声明が出され、全員一致で採択されました。私たちの交流が、東アジアの平和と人権の確立につながることを願います。

### 目 次

第 25 回坡州交流会を終えて・・・	1
緊急共同声明・・・・・・・・・・	2
坡州交流会アンケートまとめ(日本側)・	3
坡州交流会アンケートまとめ(韓国側)・	9
「平壤からの最新報告 日本から見えない朝鮮、朝鮮から見える日本」・	12

## 緊急共同声明

私たちは、東アジアの平和と人権を求めて集った日韓の教員、市民、学生の会です。私たちは、今日の日韓の外交関係悪化を憂慮し、緊急に声明を発表するものです。日本政府は、歴史の歪曲を繰り返し「徴用工」問題に対する報復措置によって日韓の対立構造を助長しています。また、韓国では市民による日本製品の不買運動、日本への渡航自粛、自治体による文化交流行事が延期及び中止になるなど、敵対意識が広がってきています。

私たちは、この影響が両国の子どもたち、とりわけ日本で朝鮮学校や韓国学校に通う子どもたち、そして日本の学校に通う朝鮮半島にルーツを持つ子どもたち、韓国内の日本にルーツを持つ子どもたちへの不当な仕打ちとして表れ、いじめなどにつながることを強く憂慮します。

韓国と日本との信頼と友好の関係を築くためには、違和感を乗り越えて対話を進めることが不可欠です。日韓両国市民が、政府に積極的に抗議し、今日の状況を打開できるように、声を上げていかなければなりません。

私たち第25回坡州交流会に集まった教師、市民、学生は、日韓の信頼と友好を回復するために積極的に行動していくことを宣言します。

日韓合同授業研究会 韓日合同教育研究会 一同

2019年8月5日

## 긴급공동성명

우리는 동아시아의 평화와 인권을 추구하기 위해 모인 한국과 일본의 교사, 시민, 학생들입니다. 우리는 최근의 한일 외교 관계 악화를 우려하며 긴급하게 성명을 발표하려고 합니다. 일본 정부는 역사 왜곡을 반복하고 '징용공'문제에 대한 보복 조치를 하여 한일간 대립 구조를 조장하고 있습니다. 한편, 한국에서는 시민들이 일본제품 불매운동을 하고, 일본 여행을 자제하며, 지방자치단체가 여는 일본 관련 문화행사를 연기 및 취소하는 등 일본에 대한 적대감이 퍼지고 있습니다.

우리는 이 영향으로 양국 학생들, 특히 일본에 있는 한국학교와 조선학교에 다니는 학생들, 그리고 일본 학교에 다니는 한반도에 뿌리를 둔 학생들, 한국에 사는 일본에 뿌리를 둔 학생들이 부당한 대우를 당하고 이것이 더 나아가 따돌림으로 이어질 것을 깊이 우려하고 있습니다.

한국과 일본의 신뢰와 우호 관계를 구축하기 위해서는 위화감을 뛰어 넘어 대화를 계속 하지 않으면 안 됩니다. 한일 양국 시민이 일본 정부에게 적극적으로 항의하고 오늘의 상황을 타개할 수 있도록 목소리를 높여야 합니다.

우리 제25회과주교류회에 모인 교사, 시민, 학생은 한일 신뢰와 우호를 회복하기 위한 활동을 적극적으로 해 나갈 것을 선언합니다.

2019년 8월 5일

## 坡州交流会アンケートまとめ(日本側)

### 1. 今度の交流会の日程で一番印象深かった行事は何ですか？

\*DMZ フィールドワーク。とりわけ、都羅山駅で「平壤方面」の表示と統一村で「END OF SEPARATION, BEGINNING OF UNIFICATION」の文字を目にしたときです。

\*「どれが、何か」を決めるのは難しいです。

朝から夜中まで、とにかく忙しく、密度の濃い交流会でした。

\*フィールドワーク 韓国の方々との交流

\*三日目の授業報告。

さまざまな角度から共和国と私たちの関係について改めて考える良い機会となった。

\*「統一がなされれば在日の苦しみは半分になる。」というユンさんの言葉です。キムさんが在日として教員になるまでの、そして教員として苦労と努力を積み重ねてこられたことに敬服します。目の前のユンさんやキムさんの苦労を分断と結びつけることなくこの交流会に参加していたのは韓半島の現実を自分に引き付けて考えていなかったということだと反省させられました。

都羅山駅で鉄路が本当につながったら、大陸を横断してパリまでいけるというのを地図で見て、自分の視野の狭さに気付きました。韓半島の北と南を自由に行き来できるようになったら、自転車でのんびり一周したいというのが私の願いでしたが、川の向こう岸よりさらに先に大地が開けているという実感は、島国からきた私にとって今回の交流会で未来を見させてもらったような気がするものでした。

私の母は、満州からの引き揚げ者で、妹を亡くして帰国したのですが、残留孤児が帰国して家族を探しているNHKの番組を見ながら、妹が生きていたらブラウン管の向こうにいるのは妹だったかもしれない、とよく言っていました。画面の向こうから伝わる家族を必死で探す孤児の方の切実さ、また無力感を思い出し、離散家族を探す方たちの思いが胸にせまってきました。

\*フィールドワーク。第12回抱川交流会のフィールドワークで鉄原の銃弾の跡や第二トンネルなどを見学した。そこは南北分断の現実が見える場所であり、南北の緊張関係が見える場所であった。しかし、今回訪れたDMZは、第三トンネルなど緊張を示すものもあったが、臨津閣、都羅山駅、烏頭山展望台など、統一の希望を示す場所として展示されていたのが印象的であった。明るいイメージの展示、おしゃれな喫茶店、子どもが遊べる遊具などがあり子ども連れの観光客が多く訪れていた。今の時代の統一への期待を感じる場所であった。近い将来、南北の人々が自由に行き来し、私たちが電車で平壤に行ける日が来ることを願う。

\*偶然会った因縁：岡山朝鮮学校×ドンジュ（ユンドンジュ＝尹東柱）部屋一企画した人：ピース博物館を夢みるシンガー ホン・スングァンさんとの出会い。

スカイプを介した金先生の特別報告

\*スカイプ会議。案外上手くいって驚いた。韓国側のIT技術の高さを感じた。やはり、発表者（今回は、金さん）の表情を見て、声を聞きながら話すことができ本当によかった。また、内容もすごく感動的だった。差別とどう向き合ってきたか、なぜ教師を目指したか、など、多くの若い人にも聞かせてあげたいと思った。自分のすぐそばで、在日コリアンが困難な道を歩んでいることを知ってもらいたい。

スカイプでの会議は、今後にも活用したい。その場合、マイクを使わない方がよく聞こえたというので、留意しておきたい。

緊急共同声明を出せたこと。実は、思い付き的で何の準備もなかったが、皆さんの思いが同じだったので、両研究会の潜在的な瞬発力が発揮されたと思う。チームワークも素晴らしく、あっという間に最終日の決議につながった。日韓の双方の力を合わせて、どん底と言われる韓日関係の悪化を乗り越えていくことに希望を持つことができた。何か行動したいと、思いを新たに、よい出発点になった。

\*共同声明を出せたこと。「共和国」と「韓国」の分断をのりこえる具体的策への市民ができることを、一步前進させたこと。

\*今回は交流会会場には参加していませんが、スカイプで発表させていただきました。原稿のみの報告で補足説明などを軽く電話でもしようかと思っていたくらいだったのですが、本格的にスカイプで発表をすることになったのは驚きでした。

発表内容ですが、どこまで伝わったのかが気になります。私としては、まだまだ発表しきれないこと、まとめ切れていないことがたくさんあります。在日コリアンの公立学校教員を取り巻く現状は、90年代に指紋押捺制度がなくなり、96年に川崎市行政職で国政条項がほぼ撤廃されて変化してきた動きはあります。しかし、あれから20年経過し、多くの在日教員や公務員がベテランの域に入っています。公務員になれたが、立場があいまいな状況があまり理解されていないことをさらに訴えたかったです。

\*招請講演(イデフン教授)の「分断暴力と脱分断、脱分断平和教育」についての分析や視点(「構造的暴力」「分断体制」「遂行的分断論」など)、特別報告(安明善先生)「統一過程をドイツから学ぶ」、小6の授業報告(禹智暎先生)「分断を超え平和な半島を夢見て」を聞いて、統一に向けた深い思索・具体的な取り組みが進んでいると、感じた。講演と報告の理解不十分なまま、私のノートには、「脱分断 すなわち 交流」「日本は互いを認めないことが問題」「外から開けるのは難しいが、中から開けられる」「朝鮮の統一の最大の問題は日本」とメモしていた。

フィールドワークで韓国の人々と共に見た、国境を越えようと作られている駅(都羅山駅)と線路の風景。烏頭山展望台から見た、二つの河(北から流れてくるイムジンガン=臨津江と南から流れてくるハンガン=漢江)が合流する風景。

\*DMZのフィールドワーク(これが組み込まれていたので参加したと言ってもよいかも)

\*イデフン氏の講演 南北「統一」を言うよりは「脱分断」を目指すのが現実的であり、柔軟な方法であることに気づかされました。

フィールドワークで望郷の丘に行き、たくさんの「離散家族」が家族の消息を求める叫びをみたこと。

\*一番楽しかった行事はフィールドワークでした。やはり日本で住んでいるので韓国人にもかかわらず北朝鮮に関する場所に来る機会がなかったのですが、今回の機会に烏頭山統一展望台、臨津閣、地下トンネルなど色んなものが見られて楽しかったです。

\*DMZ ツアーです。金大中・金正日南北共同宣言により立ち入りが可能になった直後に足を踏み入れて以来、約20年ぶりに再訪しました。今回は天候に恵まれ(暑かったです)、開城市街地はじめ、北韓の地が手に取るように見えたのが印象的でした。

\*DMZ・臨津江へ訪問できたことです。南北分断の現実を知ることができて大変有難かったです。

\*フィールドワーク 軍事境界線、トラ山です。

この分断の根が、日本にあることを、改めて心に刻みました。

\*フィールドワークがとてもよかったです。特に鉄道の見学、南北はつながっているということは改めて印象的であった。

新しいメンバーで千葉の先生方が参加してくれたこと。共同研究が相互に確認できたことがよかった。

日韓のメンバーが集まり、共同声明を出すことが出来た。これが自然にできたことがこの会の力と感じた。

## 2. 今度の交流会で一番楽しかったことは何ですか？

\*レセプションの最後に、日韓入りまじり「炭坑節」を共に踊ったこと。今回のテーマを体現したような気持ちになれました。

\*1年ぶりに出会った韓国側のメンバーといろいろな話ができたと。

\*食事での交流等。レセプション。

\*世代を超えて日韓両国の様々な人と交流ができたこと。バスが隣になったのがきっかけで、チョンヨンジュ先生と親しくなれたのが嬉しかった。韓国語を話せない日本側の参加者の通訳のお手伝いのできたのが嬉しかった。

\*しばらく交流会に参加していなかったのが日本側、韓国側の初めてお目にかかる方たちにお会いできたことです。体調不良で思い通りに交流を深めるといふわけにはいかなかったのを残念に思います。

\*高い天井までの本棚がある素晴らしい施設でした。本の中に囲まれているだけで、幸せになりました。このような施設の中で、韓国側の皆さんが笑顔で迎えてくれたことを嬉しく思いました。帰国してから何人かの人に、「韓国大変じゃなかったか。」と聞かれましたが、交流会の仲間はもちろん、町の中で道をたずねても地下鉄に乗っても、韓国の人々は以前と変わらず親切でした。この時代の中で、このように笑顔で挨拶が交わせたことに意味があると感じました。

\*25回目の交流会、積み重ねられた友情と、新たな出会いがあった。(会を生み育てた方々、その生徒さんや娘さん、異なる場で同じ方向で活躍してきた方々と)レセプションでの飛び入り(金時鐘さんと関係のある方とか)。全員が輪になって炭坑節を踊った。韓国側の方々はこれも上手だった。

\*準備段階でキムジンミョン先生とかなり長い時間、スカイプで話したことです。結構長い時間お話ししました。昔のインターネットチャットは回線がすぐ切れたり、画像が不鮮明になったりなどの問題がありましたが、今はかなり変わってきています。

\*もちろんレセプション。○会場が広すぎ、○料理が各人皿でちょっとごちなかつた

\*たくさんの韓国側の懐かしい人たちに会えたこと。日韓交流の大切さを今年ほど感じたことはなかった。

炭坑節と一緒に踊ったこと。私は小さい頃は、盆踊りをよく踊ったので、リズムに惹かれるものがありつつも、朝鮮文化に熱中し始めてから遠のいていた。今回の炭坑節は、懐かしく、いいなあと、素直に楽しむことができた。ウジョンさんの豪快な踊りが楽しかった。

\*成長した弟子・ソイの参加。いつものように、両国間会員との出会い

\*韓国の友人たちとの再会

\*全ての日程が楽しく過ごせて順位は付けられません。が、特に、烏頭山統一展望台の喫煙室で金成鎬さんと日韓情勢について語り合えたこと、そして、ポケトークを使って金振明さんと労働組合運動についてちょっぴり話し合えたこと、(ポケトークの正確性を証明してもらいました)更に、障害児の高校進学運動という共通の課題を担っている堀川さん、小林さんと出会えたこと、レポート報告、討議も楽しかったです。

\*今回の交流会で一番楽しかったのは、最終日のレセプションでした。日々深刻さを増している日韓関係の中でも、相変わらず韓国と日本の先生方を見ながら万感が交差しました。

\*昨年、初めてお会いした韓国在住の先生方と再会できたことです。

余談 合同文集『ウナス』（銀河）も、日本語を読めない韓国の先生方に、2カ国語に翻訳したものを手渡し出来、喜んでもらえて良かったです。余興で、踊ったことのない「炭坑節」をまさか、韓国の先生方から教わるとは！

\*初日夜に、韓国側メンバーと、日韓基本条約、請求権問題について、突っ込んだ、かつ客観的な議論ができたことです。25年の親交の成果を感じました。

\*日韓の相互の出し物の時に韓国の作家の人たちが飛び入り参加してくれたこと、驚きである以上に、今回の日韓の状況の中でこの研究会の外部の人が研究会に興味を持ち参加してくれたこと。日韓交流が重要であるということを強く感じた。

\*古くからの韓国の友人たちに会え、彼女らが朝鮮学校との新たな交流を目指していることに感動しました。

\*参加メンバーの多士済々さ。（日韓ともに）

### 3. 今度の交流会に対するご感想をお書きください。

\*私は、南北朝鮮の統一は生きているうちには実現不可能だと思って諦め感が強かった。革新政権になると、何度も南北対話が浮かび上がるが、常に世界情勢が許さなかったし、在日コリアンの社会ですら民団・総連の対立によって分断が固定化されてきた。思想を乗り越えることはこんなにも難しいことかと思ってきた。朝鮮学校への差別を許さない、という場で日韓合同授業研究会が動き始めたことが、在日社会の分断を超えていく大きなきっかけになっていると思う。今回は、特に総連との懸け橋になってくださる方との出会いもあり、韓国側の認識もずいぶん変わったと思う。それは、今回交流会の総合テーマである「違和感を克服して・・・」という、行為の大切さを日韓の両方で実感したと言えるのではないだろうか？少なくとも私の中にあつた違和感を具体的に超えていく一歩になったと思う。私自身は、文在寅大統領の南北対話から急にリアリティが出てきた統一問題に、生きているうちに北の親戚に会えるかもしれない、ソウルからケソン、新義州を通り、鉄路モンゴル高原を越え、ヨーロッパ横断鉄道に乗る夢がかなうかもしれない、とあってちょっと興奮している。

\*交流会の準備のためにご苦労された韓国側会員の方々と、愛情を持って韓国を訪問した日本側会員の方々の愛情と熱情に、いつも感謝する心で一杯です。

\*私は、パソコンの中の人だったので、自分から出向いて多くの人とお話ができなかったのが残念でした。パソコン上での発表はリアルにできたことが非常によかったと思います。今後も、この形を取り入れておこなうことができればいいなと思います。

\*南北の分断をこえて、というテーマは、日本の朝鮮学校への差別、交流中におきた名古屋の“不自由展”への悪質なバッシングでの中止・・・腹立たしく、この空気を何とかしなければと思いました。

\*Skypeを駆使しての交流、討論の時間を設けてグループ発表、素敵なコンサートなど新しい試みが盛りだくさんで余裕のある進行だったと思います。言葉の壁があったから、というのは理解していますがグループが国別になってしまったのは少しもったいないなという気がします。発表にいたらない内容になったとしても相互に語り合う場とできたらそれも充実感にあふれる時間になりそうな気がします。グループごとの発表となったせいか報告に対する質疑応答が少し応酬に乏しかったように思います。

通訳のチョヘジンさん、大草さんの真剣で誠実な働きに感謝します。息をつく暇なく通訳の必要なところに馳せ参じていて素晴らしい働きをしてくださったと思います。

ソイさんもフットワーク軽く動いてくださってありがとうございました。

韓国の方を見習って食べて動く！を信条にしているのに今年は睡眠不足と暑さにやられて食べ

ることができなくなってせっかくの韓国の美味しい食事を満喫できず本当に残念でした。콩국수가美味しかったのに食べきれなかったのが本当に悔しいです。

\*Skypeでの授業報告やグループディスカッションといった新しい取り組みはとても良かったと思う。もう少し質疑応答の時間が確保されていたらもっと良かった。

初日の自己紹介の前に行ったアイスブレイキングはとても有効だった。そういうゲーム感覚でできるものをレセプションにも取り入れたらもっと盛り上がるのではないかと思った。

\*各団体や個人の方と、交流ができて良かった。

韓国の方々とのコミュニケーションが取れ、じかに話ができただけに意味があった。

\*日程はそれほどきつくない、よかったです。

午前のFWは説明が長く、個人的に見て回る時間がなかったのが残念。

\*初訪韓・初参加にもかかわらず、特別報告をさせていただき光栄でした。韓国の地で「千葉ハッキョ」の映像をみなさんに観ていただいたときは感無量でした。

\*イデフン教授の「分断とは私にとって何なのか」という問いに対して、それぞれの現場での分断と解放への取り組みを語られたことは、厳しい状況の中にあるそれぞれにとって大きな励みになるものでした。25年を迎えて、課題は多くありますが、夢に向かってできることを進めていきたいと感じました。韓国側のスタッフが困難を超えてしっかりと準備を下されたことに深く感謝します。また、ハプニングにも気持ちを込めて対応してくださり感謝しています。

\*韓国側の献身的な運営に心からの感謝の気持ちで一杯だ。報告、FWの中身の濃さはもちろん、宿泊地、食事他、全てにおいて最善の努力をしてくれたことを感じた。

\*自分の不注意で怪我をしてご心配をかけましたが、日韓双方のたくさんの方々にお世話をお願いした。ありがとうございました。

宿舎はホテルのように快適でした。会場全体が図書館になっていました。もう少しゆとりがあれば、本を何冊かめくって見たかったです。

\*素晴らしい会場環境での密度の濃い討議、クールダウンのコーヒータイムが組み入れられた余裕のあるフィールドワークなど満足のいく4日間でした。

個人的には、イ・デフンさんの講演や安明善さんの報告を聴き、そしてDMZに初めて立って、改めて南北統一に安倍政権がいかに積極的に関わろうとしていないか（むしろ妨害している!）、だからこその日本の市民としての責任を痛感しました。そして、朝鮮学校の授業料無償化除外の問題を東アジアの観点からとらえなおした時、南北統一の課題と深くかかわっていることを再確認できました。

\*今回の交流会は成人になって初めて参加するようになったのですが、たぶん、大学講義を聞いていてそうが、イ・デフン教授の講演や授業報告が、以前とははっきり違うように近づいてきたようです。一日中進められる授業報告でも始終楽しく聞くことができました。今回の交流会もやはり私に多くの教えと教訓になりました。招待して下さったチェヘジン先生と嬉しく迎えて下さったすべての先生方に感謝します。

\*チョン・ジョンイクさん、ペク・テヒョンさんから、中学校「自由学期制」における授業実践の話をお聞きしました。自由学期制とは、2015教育課程の目玉の一つで、日本でいう総合的な学習（探求）の時間を、ある学期に集中して取り組むものです。韓国の教育改革は、日本にとって学ぶ点が多くあることを、再認識しました。

アン・ミョンソンさんが、南北間の教師交流に言及したので、個人的に「全体主義的な北韓政権から派遣される教師と、内実のある交流ができるとは思えないが？」と質問すると、「おっしゃる通り、北韓の政権は独裁的で、“交流”に限界があるのは承知している。」と前置きしたうえで「それにもかかわらず、始めることに意味がある。始めなければ、何も成し遂げられない。」と力

強く語られたのが、印象的でした。南北分断は、日本の植民地支配の延長線上にあり、日本にとっては過去ではなく「現代史」であるという観点から、考えていくべきと、改めて感じました。  
\*今回のグループ討論と、その後のシェアタイムの試みは、とても良かったです。途中で、グループのメンバーを替えると、より他の方と話が出来ると思います。

せっかく韓国で開催したのに、韓国側の先生の参加者が少なくてちょっと残念でした。

\*役員の方をはじめとして、韓国側のみなさんに大変お世話になりました。

会場の「紙の郷」がすばらしかったです。

\*パジュで実施したことがほんとによかった、特にこの政治状況の中で私たちがこの時ここで、深い交流ができたこととこれが次回につながることになると思った。

\*初めての参加で、また事前の勉強が全くない状態での参加でしたので内容理解が、今一つというところでした。

#### 4. 次期の交流会に望む点は何ですか？

\*対馬での開催に心躍るものがあり、もうチケット検索をしています。福岡からよりも釜山からの方がずっと近いことを改めて実感し、釜山経由での現地入りを検討しています。担当者の皆さんには大変な準備期間になると思いますが、参加するだけの身でなんら応援できませんことに申し訳なく思います。参加者を一人でも二人でも増やして参加できればと思っています。

\*お互い健康でまたお会いしたいです。

\*対馬での交流会は又、私たちの、日韓の歴史についての視点や認識を深め、飛躍させてくれるものになると思う。交流会の組み立ては難しい点もあると思うが、協力して成功させたい。

\*来年は対馬での交流会となります。いろいろ不安もありますが楽しくやりましょう。今年参加できなかった人、初めて参加する人もたくさん参加できると嬉しいです。

\*「望む」ではなく、「臨む」という視点で言うなら、事前にもっと丁寧に各レポートを読みこなして、質問・意見等をまとめておきたいと思います。

\*とにかく続けていくこと。

\*日韓の交流や深まりを感じられるような交流会に。

\*朝鮮学校の教師による授業報告

報告書作成のための事前準備の充実化（役割分担等、事前にはできることはしておくほうが良いと感じた）

\*活発な意見交換、それを引き出す今回のような新しい試みが参加者それぞれに新たな発見をもたらすものになるとよいと思います。台風だけでなく不測の事態に対応できる体制と周到な準備が必要だし、一人一人が腹をくくって動かないと回らないことを韓国の事務局の方たちの献身的な姿勢から学びました。全力で交流会を運営してくださったことを心から感謝します。

\*日韓の政府の対立の影響がエスカレートして“行列”も中止、なんてことがないよう、私達も、努力したいですね。

\*スカイプを導入する場合、こちらの発表がどのような形で伝わったのかを全く知るすべがないので、どのような様子だったかを教えていただければ助かります。

パソコン上の私からは、皆さんの声は聞こえるのですが、パソコンのマイクがマイクの音を拾っているため、コピーした音をさらにコピーして私のスピーカーに届いたため、皆さんの話や声が半分しか聞き取れていないのです。パソコン上の相手に向けて話をするときは、マイクなしでできるだけ大きな声でお話してくださるとクリアに聞こえます。パソコンの内蔵マイクはかなり高性能です。広く音を拾います。初めての、しかもあまりテストもなしに、ほぼ、ぶっつけ本番でやったことがうまくいったことがとてもうれしかったです。次回にもつながればよいなと思い



ます。

\*開催するだけでなく、安全に交流会が進行できるようにする！

懐かしい顔が一緒になる、来年の夏を期待しています。

\*たくさんの韓日双方の参加者で、どうしたら平和な世界を築くことができるか、掘り下げたい。2019年のテーマである、違和感を乗り越えて、統一を見通す、という思想は、平和と友好を望む姿勢だと思う。この思想を引き継いで、実際にどうしたら、韓国と日本の間にある違和感や政治的対立を克服して、平和と友好の関係を築くことができるか、じっくり話し合いたい。

400年前に大きな対立状況にありながら、交渉し、他者理解に努力を注いで、友好と平和のシステムを作り上げた朝鮮通信使の偉業から学び、東アジアの平和を目指す立場を共有したい。

\*最も残念だったのはどうしても若い先生方の流入不在ということです。授業報告の時にもいろんな先生の授業報告を聞くことができたならもっと豊かな交流会になれると思います。これからも応援します。

\*今回のグループ討論と、その後のシェアタイムの試みは、とても良かったですので、今後も続けて欲しいです。

対馬には、朝鮮人が居住していた遺跡が島のあちこちにあるらしいので、そこも巡りたいです。

\*対馬における環境問題に取り組むNPO活動について、取り上げたいです。

\*次回に大いに期待している。この政治状況の中で対馬が「対日本」「対朝鮮」のダブルスタンダードを持つことが出来た。なぜこのようなことを考えることが出来たのか、その努力と知恵を知りたい。

\*世代交代を急がなければと思います。

\*事前の学習の機会（プリントの事前配布でも結構ですから）を与えて下さればと存じます。

(まとめ:川辺)

○ | ㄹ ㅎ | ㅅ ㅎ | ㅁ ㄷ ㅁ ㅅ ㅈ ㅊ | ㅁ ㅊ ㅋ ㄴ ㄷ ㅎ ㅅ ㅈ | ㄹ ㅎ | ㅅ ㅎ | ㅁ ㄷ ㅁ ㅅ ㅈ ㅊ | ㅁ ㅊ ㅋ ㄴ ㄷ ㅎ ㅅ ㅈ

## 坡州交流会アンケートまとめ(韓国側)

### 1. 今度の交流会の日程で一番印象深かった行事は何ですか？

\*討論活動：参加と対話を通して、平和 人権 統一について視野が広がった。

\*討論活動：自分の意見を述べるということは、この会で一番重要な核心であり、それまでの話す機会が少数に限られていたため、もどかしかった。今回は多くの方々の多様な意見を聞くことが出来てよかった。

\*やはり交流会の華である、授業報告が一番印象的です。その中でも、ウジョン先生、キム先生の報告が多く考えるきっかけを抱かせてくれる。私達交流会の存在理由をよく現している。

\*DMZ FW：現代史の桎梏をはらむ注目の場所を、韓日両国会員がともに訪ねて、未来の平和 人権 統一を祈念したことが意義深かった。

\*全てが印象的でしたが、特にスカイプを利用して、東京で勤務するキム先生とつないで映像で発表をすることができたこと、地域と距離の環境を飛び越えて、心と熱情があれば互いに会って交流することが出来ることを確認しました。

\*授業報告 ウジョン先生の小学校の子どもたちとの授業報告。私たちが集まりで、平和 人権 統一 教育が、今後は未来世代のこの子ども達によって完成されるだろうからです。

キム先生との映像特別報告は、自身が経験してきた話、経験している在日朝鮮人としての正直で飾り気ない報告を聞けてよかった。

\*韓日市民間の交流、それ自体に意味がある。特に、一緒に踊り歌って、フィールドワーク、討論等。

\*フィールドワークで都羅山駅に行ったこと。これ以上北には行けないことについての悲しみと分断の現実を実感したこと。南北間の交流が1日も早く実現されたならいい。

## 2. 今度の交流会で一番楽しかったことは何ですか？

\*公演を通じて一つになったこと。講演を通じて知的刺激、報告を聞いて討論する時間、レセプションで一緒に踊ったこと等。

\*韓国語が上手な日本人、日本語が上手な韓国人が多くなって、自然な対話が楽しかった。

\*レセプション：相手を思いやっでの準備と、自発的参加で華が咲く。

\*交流会の進行に討論の時間を増やしたので、色々な会員たちと話をする時間が多くて楽しかった。

\*快適な環境 良い宿舎で時間に追いかけることなく余裕をもってセミナーを進行できて良かったです。ポエムの公演、団体Tシャツのさわやかなミントの色合いが心を明るくしてくれましたね。

\*日本の先生方との楽しい交流、食事時間、蒸し暑いフィールドワークの中でも熱心に一緒に行動したこと。

ポエム公演の歌詞の内容が、私達の悩みと似ていた。歌詞「私はあなたが願うような生き方はできない。私はあなたが求めるような人間ではないの」「このまま愛して」

\*瞬間、瞬間が楽しかったが、韓日間の集団ダンス。初日にやった、お客様を連れてくるゲーム。自然に互いに交わることができるきっかけになった。全ての先生たちが、楽しんでる様子を見られてよかった。

## 3. 今度の交流会に対するご感想をお書きください。

\*「違和感を超え向き合おう 平和 人権 統一 その新たなのはじまり」をテーマに対話と参加を通し、話を交わすことが出来た。

力というと、つい「暴」を思い浮かべるが、暖かい言葉一言も大きな力となる。力にも多様性があることを知ることができた。想像力を発揮して、他の視点で考えることができた。脱分断 想像力を発揮して教えることができる力が生まれた。

\*みんなが参加することができ、交流らしい動きがあった。今では、友人よりさらに親しい親戚のような感じがする。統一に向かう努力もこのように歳月をかけてたくさん交流をしながら自然に対話する方法ですとよいだろう。

\*考えと気持ちを遠慮なく交わしてよかった。両国の交流が社会の発展に、わずかでも持続的に寄与できたらいいと思う。

\*私達が現在置かれている現実についての適切なテーマを土台にして、真剣な講義、フィールドワーク、討論等が多様に行われてよかった。

特に千葉県朝鮮学校(小) 学生たちの教育活動の姿を見せてくれた特別報告は、多くの点を示唆するものだった。

\*韓日関係が一番難しい時に、韓国に来られた日本の先生方、ありがとうございます。在日朝鮮人として暮らしておられる方々について深い関心を持つようになり、ユンチョジャ先生、キム先生、斎藤さんに感謝しているとお伝えしたいです。こんな難しい時代であるだけに、日本との交流と出会いが重要だと思います。完璧なお二方(チェさん、大草さん)の通訳で幸せな時間でした。

\*難しい時期にもかかわらず持続的な交流会が実現できた点。

\*いままでの、どの交流会よりも会員同士の活発な討論と意見の交換が実現された点がよかった。対話できる時間が多かった。

#### 4. 次期の交流会に望む点は何ですか？

\*韓日関係が深刻になればなるほど、堅い意思をもって、たゆまず交流会が維持されることを望みます。

\*いつも 今のように

\*名古屋で開かれるはずの展示が、慰安婦像展示で権力により中止になる等、好ましくない難しい状況において交流会が進行された。来年の交流会では葛藤が解決してさらに深い交流ができることを期待する。

\*24回交流会に比べて、参加者が少なかったが、会長団が充実した交流会ができるようによく準備してくれたこと、ありがとうございます。授業報告、研究報告等が坡州交流会のテーマとよく繋がっていて、現場性の高い交流会でした。

個人的には、イデフン教授の「脱分断 教育」を通じて、多くの刺激とヒントを貰いました。反共教育を受けて育って、反共教育をしてきた人間として、私の生活の中で子ども達を統制して、私の人格においては、私が自分自身を統制してきたことがわかりました。身体と意識の中で、考えと行動が分裂して、自己検閲に苦しめられたということです。自由に柔軟に行動したいです。

\*韓国側と日本側が、さらに安定的に1年、意味ある活動をして、この難しい日本と韓国の和解と交流が継続し、来年にはよい交流会が引き継がれることを希望します。

\*授業と、入っている日韓合同授業研究会で、授業を含む概念が入っている新しい方向の設定が必要であり、これを通じて持続可能なシステムが作られたらいいと思う。

#### 5. その他

\*分離と葛藤（いざこざ）が分断をつくって、様々な面で、消耗感が大きいです。仲良くしコミュニケーションをとることが、平和時代を開く発展的要素です。

未来の時代を生きていく、後の世代に恥ずかしくない現在になることを願います。私達は、解決に関わっている者として、努力しなければならないと思います。

\*ありがとうございます。愛しています。

\*今年は、特に「緊急共同宣言」を出したことは意味がありました。

\*朝鮮学校と教師交流をしていって授業共有、授業実践を一緒にしたらいいと思う。

\*韓国にある学校（小中高）と朝鮮学校へ教科書を送ること（教科書交換）、募金運動（集まる度に少しずつ現金を集め、教科書を購入して朝鮮学校に送る）。未来の統一の教育で、違いに対する緩衝の役割をできればと願います。最も大変な難しい時、韓国側の人数が少なかったが、会長と役員たちと参加会員達が協力して成功裏に交流会を終え、本当にありがとうございます。

\*執行陣のご苦労が多かったです。

（訳・まとめ:川辺）

# 「平壤からの最新報告

## 日本から見えない朝鮮、朝鮮から見える日本」

フォトジャーナリスト・伊藤孝司さんの話を聞いて (要点と感想)

川辺

2019年6月23日(日) 15時~17時 新宿多文化共生プラザ 参加 30名 (2019.7.4まとめ)

久しぶりに会の講演会ができました。「違和感を超え・向き合おう—平和・人権・統一、その新たな始まり」をテーマとする8月初旬の交流会の前に、ふさわしい学習の機会になりました。

波多野さんからの伊藤さんと著書『ドキュメント 朝鮮で見た<日本>知られざる隣国との絆』(岩波書店 2019.4.18 発行)の紹介がきっかけでした。朝鮮人道支援ネットワークジャパン・ハングネットという粉ミルクを乳児院に届ける活動をしている会で知ったそうです。フォトジャーナリストとして貴重な写真を見せてくれるのに上映環境が悪くては申し訳ないと、暗幕を外部から借りるなどの準備を善元さん・藤田さんがしてくれました。

フリーのフォトジャーナリストとして、朝鮮に41回、韓国に46回、取材に入って見てきた行動力に驚くとともに、朝鮮半島だけでなくアジア・太平洋各地も200回取材してきて、歴史問題だけでなく、今は環境問題にもっと取り組みたいと話されたことも心に残りました。取材に行った各地は、経済的には貧しいが、精神的には満たされていると感じる一方、日本は狭く、偏屈な社会に感じる、と話されました。朝鮮が日本から特別に見えるのは、安倍政権になって、マイナス・負の部分だけを拡大して見せるからで、朝鮮は特別ではないとも、話されました。マスコミが安倍政権に忖度している報道にアキアキしていた私には、本当に有り難い講演でした。自分の足で繰り返し現地を訪ね、歴史や人々の暮らしの一端を丁寧に、写真と文章にして報道・出版している意義と、伊藤さんの人間としての真っ当さを強く感じました。隣で生きてきた、生きている人々の実像をしっかりと伝えようという志と行動力は、貴重です。賞狙いや、1分ごとの視聴率に振り回され、保身に汲々としている日本の報道は腐っている、との言葉にも共感しました。

2,500万の人口の朝鮮に、普通の人々の生活があることを少しも知らせず、異常さのみが伝えられる日本。G20サミットの後、トランプ大統領は板門店に飛んで、金正恩労働党委員長と第三回会談をして非核化協議の再開に動く、横田めぐみさんの弟さんはNHKのテレビにすぐ登場、「核の問題のために拉致問題で譲歩しないでほしいと」発言していました。「制裁を緩めるな」という意味のようです。確かに「拉致」は許せない。朝鮮の国の誤りである。が、自分たちの国・日本は、それ以上の苦しみを与え続けてきたことを知らなくていいのでしょうか。植民地として支配し、主権を奪い、言葉や名前、生活・生命を奪いました。しかし、「近代化を教えてやったし、植民地支配に対しては賠償を払い解決済み。いつまで蒸し返すのか、朝鮮の核開発は日本の安全保障上の脅威である」と、日本は制裁を強め、軍備増強の口実にして武器購入を進めています。韓国に対しても制裁、対立を深め、互いの経済・生活の困難を増す政策をとりました。こうした政治を受け入れているのは日本国民として恥ずかしいことです。第2次世界大戦が終了した1945年までの植民地支配のみでなく、日本軍解体のため朝鮮半島に入ったアメリカ軍とソ連軍が対立して始まった朝鮮戦争と南北分断の年月と被害の大きさにも注目しなければならないと思います。又、日本はアメリカに従属、軍国日本を温存して、社会主義ソ連を敵とし、戦争体制を継続、軍需産業を育て、平和を上辺だけのものにしました。マスコミの利用によって、大事なことは知らされず、考えもせず、「ちょっとした安心と優越感」を国

の内外に持っただけの、経済大国になりました。「基地の島・沖縄」、「朝鮮特需」「ベトナム特需」を抜きにしてはならない経済成長です。このあたりのことは、伊藤さんの著書『朝鮮民主主義人民共和国—米国との対決と核・ミサイル開発の理由』（一葉社 2018.7.27 発行）が参考になります。

当日の話は、配布されたレジメにまとめられています。紹介されたネットの「現代ビジネス」に、一日だけ載った「北朝鮮最新情報 フォトジャーナリスト伊藤孝司が 41 回目の訪朝取材（5 月）でみてきたもの」の見出しと重なるので、その見出しを元に、補充報告をします。

#### 1, 朝鮮で見たさまざまな中国

- a, 「人民大学習室」の中国語講座は盛況
- b, 「羅先経済特区」の道路標識には中国語表記もある。中国からのサイクリングツアーなど。
- c, 板門店内の売店にあふれる中国人観光客。北京、丹東を經由して列車で来る。
- d, 平壤市内にある「朝中友誼塔」の塔内の壁画、戦死者名簿。習近平も訪問して、サイン。

朝鮮戦争では、中国人 50 万人が志願兵として参戦した。

2, 韓国の日刊紙「朝鮮日報」の人事誤報の背景。検証をすることもなく、胡散臭い情報を流して世論、外交政策に影響を与えるのは日本も同じ。

3, 「田植え戦闘」と言い、市民が援農、咸興と元山の風景。米作りが大事にされているが米価は上がっていない。節水農法がとられている。

4, 平壤郊外の日本人墓地を訪れた。2,000 人余の遺骨。全土では、2 万人以上が今も眠る。

宗教者の遺骨返還交渉：祐天寺などにある朝鮮の 452 人の遺骨。本願寺札幌別院の 13 人の遺骨。一方でソ連の支配下に入り 38 度線の北に残った日本人の遺骨も残されている。

5, 残留日本人と日本人妻たち。荒井るり子さんの場合。「咸興にじの会」の現状

6, 米朝関係と朝鮮戦争 500 万人の死者。アメリカが投下した爆弾は 63.5 万トン。太平洋戦争で日本に投下した 4 倍。アメリカによる朝鮮の住民虐殺があった。何度も核兵器の使用が検討された。今も続けられている米韓合同演習は、日常の脅威である。

#### 7, 制裁の影響が感じられない

- a, 平壤市内を走る多くの車
- b, 写真を撮られることに慣れている市民。電車の中の母子と乗客の穏やかな表情。伊藤さんイチ押しの写真
- c, 第 22 回平壤国際商品展覧会 参加外国企業 270 社。昨年より 2 倍
- d, 電力事情「水力 6：火力 4」。ホテルも停電なく、クーラーも効いていた。

#### 8, 経済制裁下の朝鮮がそれでも「経済成長」を続けられる理由

##### a, 科学技術へのこだわり

\*コンピュータールーム（科学技術普及室）がどの工場・協同農場にもあった。IT に特化されたインフラ整備が進んでいる。大学・研究機関にアクセス可。授業や入試も地方都市で可。建て直された図書館は電子図書館。数百台のパソコンで読んでいる。

\*光ファイバー網と携帯電話の通信網がかなり整備され、600 万台／人口 2,500 万人

\*平壤教員大学 パーチャルリアリティの体験

b, 高所得者がいる理由—大聖（テソン）百貨店には、輸入高級品、大型テレビ（ソニーやパナソニック）、大きなレストランがあり、混んでいる。

\*海外派遣された労働者や医師。合併事業の従業員らが購入している。企業により利益の分配がある—2002 年より 3 倍の例も。

#### 9, 「自力更生」で脱石油を模索中（1950 年代 中国とソ連の対立が深まってから）

合成燃料と合成プラスチック製造のため、石炭を原料としたエタノールを製造

10、日朝の課題と今後 宋日昊(ソンイルホ)朝日国交正常化交渉担当大使と2017年、2018年、3時間ずつ単独で話をした。「朝日ピョンヤン宣言」は大事な里程標であり、トップが決めたことなので、絶対的。必ず守る。「ストックホルム合意」は解消した、という。ピョンヤン宣言は、過去の清算も含み、国交正常化交渉を進展させよう、というもの。賠償、補償が課題。

大倉集古館、根津美術館、東大、上野の国立博物館などにある朝鮮由来のもの返還が求められている。人道的には、日本人の遺骨の返還も。

おまけ① 講演会終了後、「日本・朝鮮未来の扉」代表の沖見泰一氏(平沢勝栄さんの秘書だった方)の話。朝鮮から帰国しました。ある「日本人妻」は数年たつと家族が心配で北へまた戻ることを希望し、「北で日本を非難するキャンペーンをする」条件で再入国が許されました。自由な往来ができればいいのに。拉致は安倍首相にとって特別の位置づけ。横田滋さんをお見舞い。募金が多いので拉致家族の方の移動はファーストクラス。ただし、横田早紀江さんは、取材陣を避けて、降りるときは普通車から。首相外遊の時は2台の飛行機を使う、とか。

おまけ② カーチス・メイ(1906~1990) 東京大空襲を指揮して一夜にして10万人以上の死者行方不明者を出した米軍司令官。そして、航空自衛隊育成の功により、勲一等旭日章を授与されています。気になって、改めて、ウィキペディアで調べてみたら、「朝鮮戦争」にも大きく関わり、キューバ危機、ベトナム戦争にも。「戦後」と言っている時期があったのでしょうか? 「平和」を作り出すことの難しさを思いました。

昨年は、吉田先生、石先生が多くの資料を用意して、北海道の歴史を教えてくださいました。先住民アイヌの方々、隣の朝鮮半島や中国の方々の体験を学ぶことで「明治150年」とはやし立てる裏にあった人間の物語を学びました。今年は、朝鮮半島での日本による植民地支配が終わった1945年から2019年現在までの「分断」の歴史を学びこれからについて考える交流会が開かれます。日本と韓国・朝鮮の関係を足元から見て、次の一步を踏み出したいです。

地球大の困難：水や大気汚染・異常気象・エネルギー供給・政治の劣化も危険水位にあります。一方、経験を生かした市民・住民の相互理解と交流が、さらに進むことを期待したいです。

## 《 お し ら せ 》

### ◎第26回対馬交流会

2020年7月31日(金)~8月3日(月)

### ◎学習会

#### ①「朝鮮通信使の意義」(仮題)

11月4日(月)14:30~16:30

しんじゅく多文化共生プラザ(予定)

講師:仲尾宏さん(京都造形芸術大学客員教授)

#### ②「川越唐人揃いについて」(仮題)

12月15日(日)14:00~16:00

しんじゅく多文化共生プラザ(予定)

講師:江藤善章さん(川越唐人揃い実行委員長)

講演終了後、高麗博物館にて特別展「江戸時代の朝鮮通信使」見学予定

ウリ119号 2019年9月15日

日韓合同授業研究会 代表 藤田

事務局連絡先 E-mail: larrabee1991@yahoo.co.jp